

Vol. 129 文化の街づくり税収1%事業について —市民にやる気を起こさせた起爆効果— (平成20年2月10日)

私たちの街づくり、街の活性化への活動はいまや市民運動となって大きく広がりを見せ始めております。県下でこれだけ市民が頑張ってくれておられる街は少ないと思っています。会議所もまた、会員、職員共に元気でよくこれだけ活動しているところは他にはないと自負いたしております。

こうした私達の努力に対して、鈴木市長から「皆さんの自主的な新しい発想を持って、是非この君津の街を夢と誇りのある街づくりに力を貸してください。人や街を育てて、次の世代へと継承してください」と市税1%凡そ1億8千万円を皆さんでお役立てくださいと托されました。

この詳細はすでに、広報、インターネット上にてご覧になっておられると存じますが、基本的な考え方として、

(1) 行政主導型から脱却し、自ら活動する市民への支援を行うものである。

(2) 支援対象となる事業は、公共性が高く、市民自ら考え共に汗を流して行動する。具体的には

- ① 特色ある文化・芸術の創造
- ② 文化資源を生かした地域活動
- ③ 地域コミュニティを活性化させる事業
- ④ 特色ある街づくりを推進する事業
- ⑤ 子育て支援を充実する事業
- ⑥ 子供たちに夢と希望をあたえる事業
- ⑦ 他にも誇りうる「君津ブランド」製品を創出する事業
- ⑧ 地域の情報化を支援する事業

そして広報されますと同時に、70数件の問い合わせがあり、最終的には43件の申し込みをいただきました。

私は市長から指名され、この委員長を任されました。推薦、公募された20名の人達と実行に伴う規定等を決定。方針としては市税を使っての事業ですから、規制は細かく厳しく、やる気のある人たちにはこの事業の目的に沿って、応援しどうして、せっかくの目をつまない心がけて、育てる役目と自認して審査検討させていただきました。

文化財伝統芸能等の保存、伝承、子育て=少子化対策等、観光、農業、美化活動、文化活動と福祉等多方面にわたるものであります。

やがて、手続き得て、市民の皆様にご覧になっていただく機会があると思いますが、私達のすぐ身近にあるものばかりであります。こうした努力が続けられないと、やがて「亡び消えて働く者、今力を貸してあげないと生きる希望を失ってしまう人達、忙殺の時代の中のコミュニケーション、子育てを・・・」等、一人ではおのずから限りがありますが、3人、5人、数十～数百人となれば、相乗効果を発揮する人の力があります。家族の幸せも、街づくりも、活性化も、こうした人を育てることが基本であります。すべて私達の夢や願望を作り、育てるものは、人が作るものだからであります。

まだ、公式発表はできませんが、43件の申請は、予算全額ではありませんが、自主的に活動できる範囲で採択されました。この事業はこれからも続けられます会議所でも、今少し横の連携をとらえ、この事業をもっと有効に活用される様お勧めしたいと思っております。

来年度はこの事業を活用される方たちが倍増する可能性が十分あり、また大いに期待いたしております。申請が面倒と考える方は会議所へご相談くだされば、文案から予算作りにまでお手伝いいたします。

予算の「ばらまき」ではと案ずる人もおりましたが、私はこの事業によって43件、少なく共のべ数千人の人達が「やる気」を起こして下さったと思っています。私も専務と二人で市内各所へ招かれ、相談を受けてまいりました。間違えなく今、君津は他市にない自信を持ち、動き始めたと実感しています。